被災および浸水した時の様子 7/15~16

前日の 14 日、天気予報の大雨強風警報を受けて、15 日土曜日の校内での活動休止のお知らせを全校生徒と保護者に配信した。
15 日土曜日の昼前には、前日から降り続いていた雨と風が徐々に強くなり、学校周辺の道路が浸水し始めた。
12 時過ぎには、校内に残っていた教職員に帰宅するよう声をかけ、15 時には、用務員の岡部さんと事務局長の金田さんと私の 3 人だけが校内に残った。
幼稚園の園児一人といっしょに母親のお迎えを待っていた先生から連絡が入り、母親が近くまで来たが、幼稚園に近づくことができない状況であることが伝えられた。幼稚園側の道路を見ると、既に水が川のようになって流れていた。 その後、母親は車をドジャース（近くのスーパーマーケット）に停めて、水の中を歩いて幼稚園までたどり着いたため、無事に子供をお渡しすることができた。
16 時頃には、正門前の道路も川のように水が流れ始めていた。この時点で、校内に水が入ってくるかもしれないと感じ、修道院にいるシスターたちにも気を付けるよう連絡した。
体育館等の雨漏りの対応を終えた岡部さんと金田さんが帰宅する 17 時前には、すでに正門前の道路の水位は膝丈になっていた。南通の栄太郎さんから小泉薬局までの区間は車では進入が難しい状況であった。
17 時すぎ、道路から正門の中に流れ込んできた水が、徐々に生徒玄関に迫ってきた。
施設担当職員（紺野さん）に電話をし、水の侵入を防ぐ手段はないかと相談したが、土嚢等の備えはないとのことで、とにかく水が中に入らないように祈るしかなかった。間もなく、生徒玄関に水が静かに流れ込んできた。生徒の靴だなの下段に置いてあった内ズックを棚の上に移動させた。これぐらいしかできる事が思いつかなかった。
その後、いったん聖堂に行き、18 時半に校内に戻ってきた時には、水が玄関と廊下の段差を乗り越え、一階フロアに浸水し始めていた。
関係職員に連絡を取ろうと、校長室に入り、窓の外の中庭を見て驚いた。ヤンセンホールの大窓の下のピンクの壁半分ぐらいの深さまで、水が溜まり、中庭の中を静かに渦巻いているように見えた。水は、一階体育館横の幼稚園に通じる通路の方から校舎に向かって流れ込んでいた。金田さんと出雲さん（旧職員施設担当）に電話で状況を伝えたが、この時、すでに学校周辺は近づくことができない状況であり、成すすべはなかった。
学校周辺の民家の安否が気になり、電話番号が分かる向かいの高齢者施設「幸の家」と楢山教会に電話をし、すでに水が入ってきているようなら、建物が頑丈な学校に避難してくださいと伝えた。近所の個人宅の電話番号は分からず、連絡できなかったが、とにかくこの状況を誰かにに伝えなければ、と思い、城東消防署に電話をした。しかし、戻ってきた答えは、「南通周辺の道路は閉鎖さ

れ、車が入ることはできないので、どうすることもできません」と言われた。
この後、何が起こるか分からないが、とりあえず正門は開けておいた方が良いと判断し、一階に下りた。正面玄関から出ようとしたが、水位が上がってきているのが見えるガラス戸の扉を開けることに恐れを感じ、まだ水が浸入していない、聖堂側の中庭の扉を開けて外に出たが、思ったより水が深く、水位は私の太もものあたりまであった。前に進むことも大変な状況であったが、無我夢中で外の門を開けて必死の思いで校内に戻ってきた。
その後、「幸の家」の方から電話があり、すでに、お年寄りを連れて道路を渡ることは不可能なので、奥の 2 階スペースに避難すると連絡をいただいた。
再び、校長室から中庭を眺めた時には、様子が大きく変わっていた。19:00 を過ぎたころだった。水位はさらに上昇し、先ほどまで静かに動いていた水面が、はっきりと円を描くように渦巻いているのを見た。その時、事の大きさに気づいた。この水が階段を下って地下に入ったらどうなるのか？と考えた時に心臓がバクバクし始めた。
案の定、その直後、渦巻いていた中庭の水はものすごい勢いで、地下階段に向かって流れ込んでいった。すぐに出雲さんに電話をし、状況を伝えたが、「もう手遅れだ」という答えが帰ってきた。この時の激流の音は今でも耳に残っている。
どうすることもできないと分かっていても、被害を拡大させないために何かできる事はないかと考え、私がした行動は、再び城東消防署に電話をかけることであった。大規模な電気設備がある地下に水が入ったことにより、爆発でもしたら大変だ…　隣接する民家が巻き込まれでもしたら…と思うと恐ろしくなったからだ。この時、対応してくれた消防署の方の言葉は、「所内は全員出払っている。もう手遅れです」と。後で聞いた話によると、私からの第一報（18：30 すぎ）を聞いた出雲さんは、ご近所の方を巻き添えにしないために、電気設備の担当者に連絡を取り、必要な対応をしてくださっていたとのこと。
19:20 ごろ、一斉に電気が切れた。ものすごい破壊音だけが響き渡っていた。その 10 分ぐらい後に校内の火災報知器が一斉に鳴り出した。一階の事務室に行けば止めることができると思って階段を降りたが、シスターたちが心配になり、修道院に向かった。聖堂前には水が入ってきていなかった。修道院の中も既に停電していた。玄関に向かっていくと、向かいの教会の牧師さん夫婦が避難してきたところであった。お迎えしたシスターに学校の様子を伝え、再び学校に戻った。この時、修道院の中も停電になっていたが、まだ火災報知器は鳴っていなかった。
すさまじく校内に鳴り響く火災報知器は恐ろしかった。地下に通じるエレベーターの前を通ると、中から機械等が破壊されているであろう、激しい音が聞こえ、振動が伝わってきた。もしかしたら、この頑丈な建物も壊れるかも…と一瞬考えた。エレベーター前の廊下は異様なにおいが充満していた。
事務室のセコムを解除をするカードを持っていなかったので、自分が持っているマスターキーで戸を開けて中に入った。パネルの前に立ってはみたものの、どこをどう操作すればよいのか分からず、

耳が割れそうな音の中で、一生懸命に書かれている文字をスマホのライトで照らして解除法を探していた。すると、私のスマホが鳴った。火災報知器がうるさくて全く声が聞こえないため、ヤンセンホールの方に移動し、耳を傾けるとセコムからの電話であった。事務室をカードなしで解除したため異常を感知し連絡がきた。セコムさんに事情を説明した。とにかくこの火災報知器を止めたいがどうしたらよいか、と聞くと、パネル上のどこかに電話番号が必ずあるからそこに電話するよう、に言われた。真っ暗の中、やっとの思いで見つけた電話番号に電話をし、火災報知器の音で聞き取れない私に対して懸命に対応してくださった方の指示に従い、何とか音を止めることができた。この間、とても長い時間がかかっていたように感じたが、時計を見た時にはまだ 20 時 30 分であった。電気によって自動で出る水道の水は、この時点で当然止まっていた。
火災報知器が止まると、激しい雨風の音、破壊音だけが響き渡ってきた。どうすることもできないと分かってはいても、じっとしていることができず、水が浸入してきている 1 階校舎を歩きまわった。非常に滑りやすくなっていたため、履いていたサンダルを脱いで裸足で歩いた。この時には、真っ暗闇の中、写真を撮ることにまで気が回らず、水が入ってくる場所を確認していた。
修道院に帰ったところ、修道院の火災報知器が激しく鳴り響いていた。先ほどの方法で止めることができるとは思ったが、念のためパネルに記されている電話番号に連絡をした。この時対応してくださった方は、学校の火災報知器を止める時に対応してくださった方と同じ方であったということが後に分かったが、パニックになっている私はそれに気づかず、学校が直面している状況を 1 から説明していた。修道院の火災報知器も無事に止めることができ、静かになったところでようやく、ロウソクを灯して遅い夕食をとった。21:30 ごろであった。すでに断水していたため、洗い物もできず、先に汲んでおいたバケツの水を少しだけ使って紙で食器を拭いた。

夜中に眠ることができずに外の様子を観察していた修道院のシスターの話によると、水位は午前 2 時ごろから少しずつ下がってきていたとのこと。

翌朝、4 時に目覚め、校内からこの地区一帯を見渡し愕然とした。東日本大震災の津波後のニュース等で見た風景の真ただ中に自分が置かれていることを知った。校内の臭いもひどかった。油と泥臭さが混じり合ったような何とも言えない臭いだった。その後、記録を残さなければならないと気づき、充電が残り少なくなってきたスマホの電気が切れるまで校内外の様子の写真を撮りまわった。

この後、私のスマホは充電切れのため使用できなくなった。後で聞いた話によれば、金田さん、飯塚教頭、岡部さんは、午前中に学校に来ようと挑戦したが、学校前の道路はボートがなければ入れないような状況であったとのこと。

10：00 ごろには、正面玄関前の道路の水の中を傘をさして歩く人々の姿が見られるようになった。

水はまだ膝頭以上はあるように見えた。私は、学校の中をただうろうろと歩き回りながら、降り続く雨が早く止むように祈っていた。昼近くになると、空が次第に明るくなり、雨が小降りになってきた、明らかに水位が下がってきているのが分かった。後で分かった情報によると、この頃には正門前の道路は、クリーニング屋から修道院にかけての道路以外は通行可能な状態にまで、水が引いていたそうだ。中通り病院側の道路もすでに人が歩けるようになっていた。

避難していた牧師さんたちと一緒に早めの昼食を済ませ、その後、彼らは、ひざ下ぐらいになった水の中を歩いて、教会に戻っていった。その後、わずか 1 時間程度で完全に水が引いた。近所の人々が道路に姿を現し、泥の掻き出し作業が始まった。13：00 過ぎのことである。

間もなく、校長室にいた私の耳に「校長せんせ〜い！」と叫ぶ飯塚教頭の声が響いてきた。施錠されていた学校の周りを一回りし、聖堂近くのたまたま開いていた（おそらくシスターが出入りした後）入り口を見つけ、入ることができたとか。スマホの充電が切れた後、連絡ができずにいた私は、誰かが来てくれるのを待っていたが、玄関を開けておくことは思いつかなかった。その直後に、金田さん、戸澤さん、岡部さんが姿を現した。半田教頭、戸堀先生に電話をし、水が引いたことを伝えた。金田さんは、朝から業者さんと連絡を取り合い、地下にたまった水を引き上げるための給水ポンプの手配を進めていた。完全に水没した地下通路の水をくみ上げるため、業者さん、出雲さん、藤井さんが集まった。間もなく、到着した半田先生、戸堀先生と共に、今後のことを相談した。翌日は祝日であったが、全教職員と保護者に学校の状況を伝え、作業への協力を願うメール配信をした。金先生、井上先生も駆けつけた。卒業生のキッチンカー（武田さん）も応援に駆けつけてくださったため、学校周辺の住民の方々に声かけをしようとしたが、ご自宅にお届けした方が良いだろうと考え、おむすびと味噌汁をお盆にのせて近隣の家を回った。この日早速、職員玄関のあたりから泥の掻き出しを始めてみたが、とにかく必要なのは人手であると実感した。夕方まで行った地下階段の水のくみ上げによって、階段の 1 段目が姿を現した。気が遠くなるような作業であることを知った。水と電気がない中で行うこととなる今後の復旧作業に対する大きな不安をも抱いた。これが、猛暑の中での復旧作業の始まりであった。